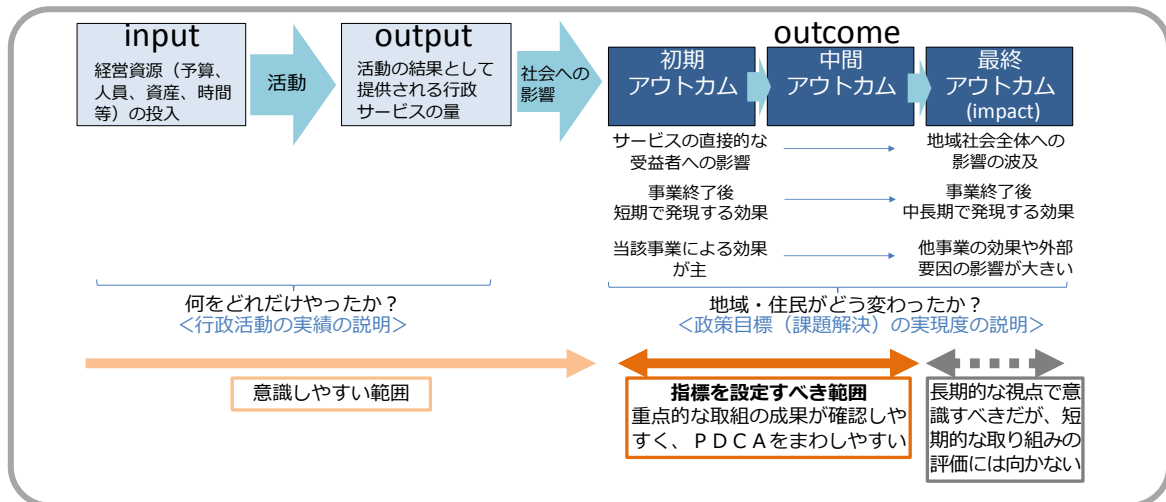


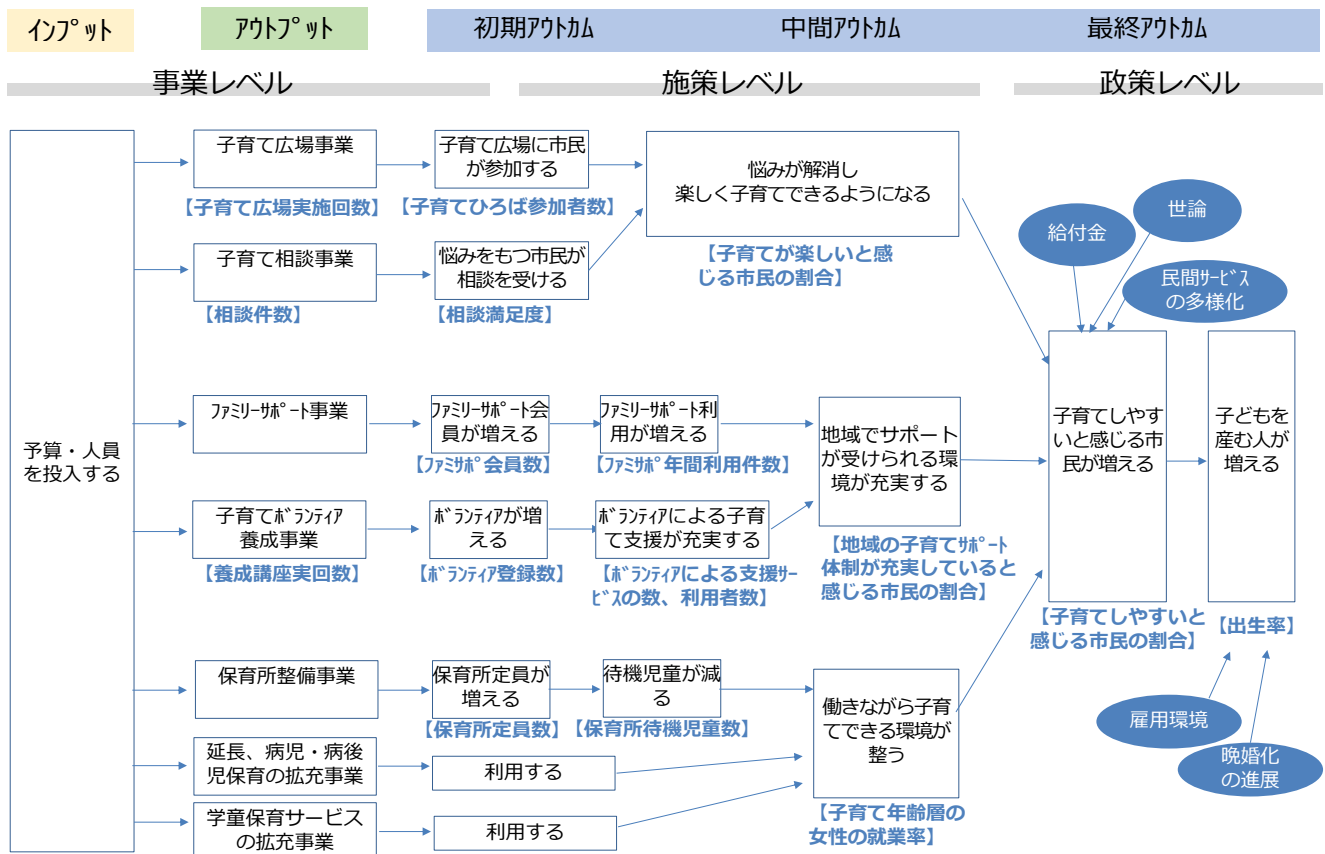
施策の成果目標値見直しの考え方について

(1) 成果目標値設定の考え方

- ・ (仮称) 第3期基本計画の4年間で重点的に取り組むことが、確実に実施され、成果に結びついているのかを確認できる指標を中心に設定する。(重点的に取り組むことに対応した初期アウトカム～中間アウトカムを設定する)
- ・ 成果が現れるのに長い時間を要する指標や、市の取組よりも社会環境など外的な要因による影響を受けやすい指標は避ける。(最終アウトカムはできるだけ設定しない)
- ・ 行政評価を通じてPDCAがまわることがイメージできる指標を設定する。(指標の成果を確認することで、次の施策展開を議論・検討できるような指標を設定)



(ロジックモデルと指標の階層イメージ)



(2) 総合計画審議会における成果目標値の見直し

①見直しの流れ

- ・各施策の検討の際にあわせて、「どのような成果目標値」が望ましいかについて、総合計画審議会の委員の皆さんからご意見をいただく。（※データ自体が収集できない項目も存在するため、すべてのご意見が反映できるわけではありません。）
- ・いただいたご意見を踏まえ、各施策の内容が固まってきた1月～2月上旬にかけて、庁内で成果目標値の設定作業を行う。

②見直しの視点

- ・「重点戦略」に対応する取り組みの評価につながるような成果目標値となる指標を設定する。

※参考：庁内で成果目標値を設定する際に使用するチェックポイント

主なチェックポイント

- 施策の目指す姿と整合する指標が設定されているか？
- 次期基本計画の4年間で重点的に取り組むことに対応する指標が設定されているか？
- 次期基本計画で取り組むことがバランスよく網羅された指標構成となっているか？
- 市の取組よりも外的要因（天候、景気、社会情勢等）による影響を受けやすい指標となっていないか？
- 他施策の取組による成果が混在する指標となっていないか？
- 成果が現れるのに長い時間を要する指標が設定されていないか？
- 経年的に把握可能な指標となっているか？
- 経年的に比較可能な指標となっているか(制度や事業規模の変化で変動しやすい指標となっていないか)？